



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

定年退職される方へ向けて

花山さん、ご定年、誠におめでとうございます。1978年(昭和53年)入職以来、医局のアイドル!?～母へ、38年間本当にお疲れ様でした。

今回、花山さんへ贈る言葉を書くにあたり、様々なエピソードをお聞きました。その中でも一番印象に残った出来事は、やはり入職の切っ掛けでしょうか。大学卒業後、銀座の大手建築会社に就職したにも係わらず、母校から昭和大学歯学部矯正科秘書の話を強く勧められ、それでも就職した会社に悪いからと断りに来たのに…。その当時の福原主任教授から「鼻の穴は二つあるけれど、いつも片方しか使ってないんだよ。」という話を聞き、さらに、「君は英文タイプ、英会話は出来るのかね？」の問いに対し、「出来ません。」とハッキリ言ったにも係わらず、「明日から来て下さい。」。なんか変、でも「鼻の穴」のような話を毎日聞けるのかも!?と期待し、入職を決意したとのこと。面白い話は毎日聞けたのでしょうか?現在は、榎主任教授のもとで職務をこなし、矯正歯科の歴史を全て見てきたのだと思います。

そのような矯正歯科の母である花山さんが退職してしまうことは、医局にとって損失であると共に、とても寂しい感じがします。花山さんの長年のご功労に敬意を表し、医局員一同感謝の気持ちを込めてお礼申し上げます。そして、益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りしています。有り難うございました。

矯正歯科 科長 中納 治久



本年3月末に定年退職を迎えられる、坂田氏は昭和大学歯科病院が開院し、中央技工室が開室して4年目に、東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校を卒業後に中央技工室に入室されました。初代室長であった青嶋仁先生も医科歯科大学歯学部附属病院技工室からの配属であり、当時は医科歯科大学卒の職員が多かったと聞き及んでいます。

坂田氏は勤続36年、その間素晴らしい技術と知識を以って歯科技工士として臨床に打ち込んでこられました。坂田氏は全ての仕事をきれいに仕上げ、どんな時も冷静沈着で、誰とでも同じ態度で接する温かな方というのが私の印象です。技工を担当した歯科医師からは、製作された歯科技工物に患者さんが大変喜ばれていたという感想をよく耳にしました。

また歯科技工士学校の専攻科生ライターや歯学部学生の技工インストラクターとしても、その才能をいかんなく発揮されました。

最後に技工室を代表して、故郷宇和島東高校の後輩として、これまで長年にわたり歯科技工室を牽引してくださった労に対して心より感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

追伸:坂田氏は再雇用制度活用により、4月から変わらぬ笑顔で技工室を支えて頂きます。

歯科技工室責任者 鍛治田 忠彦



スポーツ歯科外来 紹介



2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定およびスポーツ庁発足など国民のスポーツに対する関心は一層高まりつつあります。また、医療分野からの対応も様々な形でなされております。

さて、『スポーツ歯科医学』をご存知でしょうか？

1984年米国歯科医師会(ADA)が「Mouth Protectors and Sports Team Dentists」という表題でガイドラインを発表し3つのチームデンティストの役割を示しました。

- (1)チームの選手に対するシーズン前の歯科検診
- (2)チームの選手に対するマウスガードプログラム
- (3)試合中の口腔顔面外傷に対する治療の援助

昭和大学では、歯科病院において平成23年9月スポーツ歯科外来の開設、本年1月には藤が丘リハビリテーション病院に2カ所目となるスポーツ歯科外来が新設されました。TeamJAPANを背負う日本代表候補選手には、整形外科系・内科系そして歯科系のメディカルチェックを受ける事が義務づけられていることから、開設される運びとなりました。これまでプロ野球一軍投手におけるデンタルチェックの参加に始まり、平成27年4月に昭和大学スポーツ運動科学研究所が設置されたことを受け、大東建託(株)所属の「チーム大東アスリート」への支援や日本体育大学ラグビー部へのデンタルサポートの参画が決まりました。開設より2ヶ月が経過した現在、デンタルチェックを受診した各種競技のアスリートは30名弱に及びます。

今後シーズン前後でのアスリートのデンタルチェック受診は増加傾向が予想され、スポーツ歯科の側面から歯科の予防的管理の重要性が啓発できればと考えております。



現在外傷予防に使用する装置は一般的に「マウスガード」(MG)と呼ばれています。ボクシングはその発祥のスポーツであり、歴史的に一部「マウスピース」の呼び名の名残があります。スポーツMGは、競技中に口の中に装着する装具であり、当科では上下顎歯列の型取りし、オーダーメイドで作成するカスタムメイドタイプを作成しております。違和感の少なさ、外傷予防効果の高さは言うまでもなく既製品に比べ優れており、効果としては、歯・歯周組織の保護、口唇・舌・頬の損傷防止、顎関節の保護、顎骨骨折の予防、食いしばり時の力の発揮、全身のバランス調整および脳震盪の軽減などが期待されております。

今後、日本体育大学ラグビー部をはじめ口腔顔面外傷に対するデンタルサポート体制も強化していく予定です。口腔内のスポーツ外傷から顎骨骨折に至るまで、スポーツ歯科外来の専門性を生かした歯科医療を昭和大学から発信するとともに、Tokyo2020に向けて医療分野からのレガシーの構築を目指していけたらと考えております。

スポーツデンタルチェック・MGの作成をご希望の方は是非一度当科にご相談ください。

昭和大学歯学部歯科矯正学講座 助教

昭和大学スポーツ運動科学研究所 兼担講師

芳賀 秀郷

「我々が患者さんにとって最後の砦になるんだよ。」

これは私が新人歯科医師として入局した時に、先輩に教えられた最初の言葉でした。

高齢者歯科は15年前に発足したのですが、その前身は総入れ歯(全部床義歯)を専門とした部門でした。私は20年前にその扉を叩き、歯科医師人生を歩き始めたのです。

先輩が伝えたかったのは入れ歯が合わず苦労して、遠方から受診して下さる患者さんに満足していただける様に精進しろ、そのための覚悟を持ってといったところでしょうか。昔はスパルタ教育が主流でしたから、入れ歯作りに関しては文字通り叩きこまれました。

入れ歯が出来上がるまでには、始めの型どりから完成までに5回前後かかります。入れ歯の大きさや工程によっては、更にもう数回必要となります。完成後は調整を重ねて、調子良く使えれば治療終了です。入れ歯はオーダーメイドの一品なので、手間と時間がかかりますが、食べることは体力・免疫力は密接な関係にあるので、正確に作り、具合の良い状態を保たなくてはなりません。そのために私たちは腕を磨いています。

お口の状態は体の状態を映す鏡です。ストレスがたまると口が渇くし、う蝕になりやすくなります。胃が悪い時は舌が荒れる、疲れていると口内炎ができるなど聞いたことがあるはずです。逆に、お口の状態が悪ければ、体に悪影響があるのは当然でしょう。

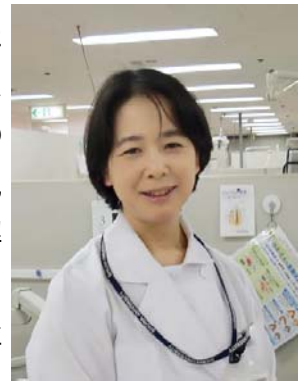
私は毎週、老人ホームと昭和大学の関連病院でも治療を行っています。自力で歯科医院通えない事情のある方は、いつの間にかお口の健康を崩してしまっていることが多くあります。

入れ歯の不具合が原因で食事が食べられない方もいました。入れ歯があたって痛いことを訴えられず怒っている方もいました。入れ歯だけではな

く、残っている歯を原因とした問題も増えています。ご本人のためにも、支えている人のためにも、言葉にならない気持ちをも察知して、早急に解決しなければなりません。

技術の面では医局の先輩に育てられましたが、気持ちの面は、幼いころから同居していた祖父母の介護経験が育ててくれました。人生の先輩である祖父母は、倒れた後も介護を通して私に勉強させ続けてくれた先生です。

こうした先輩に支えられた幸運は、歯科医師と患者さんの健康に貢献することで恩返しをしなければいけないと感じています。お口から心身の健康に貢献することを目指していますが、1人ではできないことばかりです。とくに様々な場所で治療をしているので、初診の時には困難を感じることもあります。けれども、昭和大学には同じ目標を持って力を合わせていけるチームがあります。頼れる先輩と心強い仲間(医師・看護師・歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士など)は多職種でつながるチームメイトです。これからも、自分の持てる限りの技術とチームの力で患者さんの笑顔のために尽くしていきたいと思っています。



訪問へ行きます

感謝を込めて

矯正歯科 研究補助員 花山 みゆき

この3月、雇用の延長をせず、定年退職を致します。縁あって、初代福原名誉教授、2代目柴崎名誉教授から3代目の現槇教授まで、我が儘な私を使って頂きました。

思えばこの間、IBM英文タイプライターから、出始めのCanonワープロ、そしてMac PCへと機種は変わりました。また多数の海外の来客や留学生は、英語が出来ない私には、外国旅行の楽しみを拓く鍵となりました。

全国に先駆けての歯学部のOSCEでは、SP講習会を受け学生実習に参加。今では薬学部からSPの声を掛けて頂いております。

患者さんの通院にとって便利なバス停前や駅近の立地条件の良い歯科病院は、ガランとした院内

から洗足の地に拡大充実一途の進化をし、今後のますますのご発展とご活躍を祈るばかりです。

ある院生から『どの位勤めたのですか？』と尋ねられ、『先生の年齢よりも長いです』と答えました。教諭と司書の資格を生かすことはありませんでしたが、長い間多くの方にお世話になり、誠に有り難うございました。感謝を込め厚くお礼を申し上げます。

末筆ですが、大変有り難い事に、他部署から再三「退職前にお食事を」とのお誘いを頂きましたが、身に余る光栄とお断りをした次第です。お心遣いを本当に嬉しく思いました事をお伝えしたいと存じます。本当に有難うございました。

定年退職にあたって

歯科技工室 主任補佐 坂田 泰二



昭和55年、36年も前の事になりますが、東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校を卒業して、

昭和大学歯科病院中央技工室に満開の桜に迎えられ入職をいたしました。当時は、ほとんどの技工士が20歳代半ばで若いメンバーでしたので、夜遅くまでの残業が続く日々もありましたが、毎日楽しく皆でなごやかに仕事及びアフター5を過ごさせて頂きました。そして数多くの先生方や技工室の

皆様から丁寧にご指導をしていただき、本当にいろいろな経験をさせて頂きましたので、技術や知識だけでなく様々な面で成長させて頂きました事を、たいへん嬉しくとても感謝を致しております。長い間お世話になり本当に有難うございました。

尚、4月からも臨時職員として技工室に残り、先輩から受け継いだ襷を後輩に渡して行きたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。定年退職にあたり、昭和大学歯科病院の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。



編集後記

花山さん、坂田さん、長い間有難うございました。私は歯学部一回生として第4学年に進級した昭和55年4月に優秀な不良学生？としてこの歯科病院にデビューしました。その時には既にお二人とも社会人として歯科病院のために尽くされていたのですね。本当にお疲れ様でございました。お二人とも暦齢よりずっとお若いので第二の人生を謳歌して下さい。まだまだイケマスヨ。

(K.T)

